

様式 3

令和 5 年度 自己評価表（最終評価）

鳥取県立倉吉西高等学校

教育目標	校訓である「立志」の精神に基づき、自らの志（使命感）を明確に持ち、将来、地域貢献及び社会貢献のできる心豊かな人材を育成する。	今年度の重点目標	1 人間性や社会性の向上 2 チャレンジグループ活動の再構築とキャリア教育の充実 3 学びの深化と主体的学びの構築 4 情報発信の更なる充実 5 働き方改革の推進
中長期目標	1 道德教育の充実 2 キャリア教育の充実 3 高い志の実現に向けた、学ぶ意欲の向上		

評価基準 A:十分達成〔100%〕 B:概ね達成〔80%程度〕 C:変化の兆し〔60%程度〕 D:まだ不十分〔40%程度〕 E:目標・方策の見直し〔30%以下〕

年 度 当 初					評 価 結 果（2月）		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
人間性や社会性の向上	○個人や集団の間に存在している様々な「違い」の理解度を深める。 ○「人との関わり」や「出会い」を大切にしていこうとすることで、豊かな心を育成し、主体性を培う。	○思いやりをもって人と接することができている生徒が多く、生徒会活動や学校祭、中学生体験入学などで生徒が主体的に運営し、全体を見て考えて行動できる生徒が育成されつつある。 ○校外での活動機会や講演の機会が限られており、新たな出会いを設定することが限定されている。	○存在する違いを良く理解し、積極的に自分のまわりの人たちのために行動することができる。また、人の思いに共感することができる。 ○様々な場面で「人との関わり」や「出会い」を大切にする心が育っている。	○生徒会運営にP D C Aサイクルを導入し、生徒自らが現状分析及び課題解決方策について検討していく。 ○ホームルーム活動をはじめとする様々な教育活動を通して、様々な立場で物事を考える場面を設定し、思いやりをもち相手軸で考える行動ができるようにする。 ○引き続き、目的や意図を明確にした上で、生徒自身が運営する活動やボランティア活動や講演会、校外研修などを通して、新たな出会いの場面を設ける。	○生徒会が中心となり地域貢献活動の実施、西高祭や中学校体験入学、いのちの日などの運営を行い、生徒が主体的かつ協働的に活動している。 【生徒アンケート】 生徒会活動やHR活動に参加し積極的にまわりの人たちのために行動する 76.4%（R5 新項目） ○自己理解・他者理解LHRや講演会、人権LHRなどの活動を通し、自分の周りにはさまざまな考えをもつ人がいて、相手の立場に立ち考える機会を持つことができた。 【生徒アンケート】 人権意識のもとに生徒一人ひとりを大切にする指導がなされている。91.8%（前年比-1.2ポイント） ○ボランティア活動など校外での活動において新たな人との関わりを持つことができた。 S 1 ボランティア活動参加率 100%	B	○生徒会活動や人権教育LHR、講演会等において、他者の考え方や言葉を尊重し、吸収していこうとする姿勢を身につけさせる。 ○人権教育年間指導計画をさらに充実させ、講演会やLHRなどを通して、思いやりを育む指導を行う。 ○引き続きボランティア活動、校外研修、生徒会執行部への参加など、意義を伝え、積極的な行動を促す。
チャレンジグループ活動の再構築とキャリア教育の充実	○「地域を支える、貢献に資する人材を育成する」高校として、倉吉市や地元大学等と連携しながら、「ふるさとキャリア教育」を推進する。 ○他校生との交流を通して、インプットする場面やアウトプットする場面を経験することで、自らの視野や選択肢の拡大につなげる。	○地域や地元大学等との連携の場が少なく、地域理解・課題解決への取組は十分とは言えない。 ○若者地域づくり交流会や日本女性会議プレイベントなど、校外でのイベントやシンポジウム等に参加し、探究につながる活動をする生徒が出てきているが、拡がりが十分ではない。	○地域や地元大学との連携により、地域理解が進み、課題解決への取組等を積極的に探究しようとする生徒が増加している。 ○校外でのイベントやシンポジウムに積極的に参加することで、自らの視野や選択肢が広がり、将来の学びや生き方について考える生徒が増加している。	○3年間を見通した進路学習計画に沿って地元自治体や地元大学の協力を仰ぎながら、講演会や施設・企業訪問等の機会をとらえ、生徒が地域や社会について理解を深め、視野を広げる活動を推進する。 ○生徒、教職員の連携を密にし、シンポジウム等への参加を成長の場面ととらえ、応募・参加を呼びかけるとともに、必要な支援を行う。	○倉吉市との連携に向けた協議を行い、S 1は鳥取県立美術館をテーマとした探究を実施中。倉吉市の「ばえラボ」などで地元課題への提言を行った。また、S 1フィールドワークイン鳥取、S 2フィールドワークイン関西、大学教授や学生による講演会等、チャレンジグループ活動を充実させることができた。 【生徒アンケート】 チャレンジグループ活動の探究活動によって「学び」の視野が広がった。88.8%（前年比+2.3ポイント） ○S 2の生徒は全員がオープンキャンパスへ参加し、主体的に進路を開拓する姿が見られる。 【生徒アンケート】 総合的な探究の時間で実施している進路学習が充実している。94.2%（前年比+0.8ポイント） きめ細かな進路指導がなされている。90.6%（前年比+0.8ポイント）	B	○倉吉市との連携を継続し、地域理解・課題解決への取り組みを深める。また、フィールドワークイン関西やフィールドワークイン鳥取、大学訪問、探究活動などを、校内のグループが連携して取り組むことで、生徒を育成していく。 ○校外での活動の情報を生徒に案内し、積極的な参加を促す。コンテストー一覧を作成し、生徒に紹介する。
学びの深化と主体的学びの構築	○図書館を積極的に活用し、課題解決能力の育成に向けた学びを深める。 ○I C Tの効果的な活用をさらに進め、生徒の主体的学びにつなげる授業を展開する。	○貸出冊数・授業利用時間共に減少している傾向がみられる。また、授業や探究学習において図書館を活用した学び合いの機会が少なく、学ぶ集団として協同で課題解決に取り組む姿勢が十分ではない。 ○連絡手段としての活用、学力に関する情報の蓄積、I C T機器を活用した授業など、効果的な場面は増加している。	○書籍や資料等を活用して課題解決に取り組む生徒が増える。 ○協同的・協調的な授業やチャレンジグループ活動により、生徒相互の学び合いが活発化し、主体的に学ぶ生徒が増える。 ○生徒がI C Tを積極的に活用し、主体的な学習者へと変容している。 ○全ての教科、総合的な探究の時間でChromebookを活用した学びを行っている。	○学校図書館だけでなく、県立図書館等の図書館ネットワークを利用して生徒が書籍や資料を迅速に利用できる環境を再構築する。 ○チャレンジグループ活動で班研究活動を行い、協同的・協調的に取り組む環境を整え、学び合う機会を増やす。 ○各教科と連携し、校内研究授業・公開授業等を行い、活用方法の共有や研修を行う。	○朝読書、新書活用、進路探究等、図書館の活用を通して課題解決に取り組む生徒が増えつつある。 【図書貸出冊数】 一人あたり 6.47 冊（前年比+1.02 冊） ○夢ナビやマナビジョン等を効果的に取り入れて、模試の振り返りや講義動画の視聴、情報収集等に取り組ませるなど、I C Tを活用した進路意識の醸成・主体的学びへの意識が向上した生徒が増えている。 【生徒アンケート】 本校の授業はわかりやすく充実していると感じる。88.2%（前年比+2.8 ポイント） ○各教科で公開授業を実施した。特に、I C Tを活用した授業は他教科で共有することができた。	B	○本校図書館利用促進に加え、電子書籍を導入した県立図書館の利用を促す。 ○I C Tを活用した授業スタイルの改革を模索し、より効果的な学習指導方法の構築をしていく。 ○I C Tを利用した教材等を校内の Google ドライブで共有する。 ○公開授業を継続して実施し、様々な授業モデルを試行する。

情報発信の更なる充実	○ホームページやInstagram等を活用し、生徒の活動の様子を積極的に発信する。	○校内向けには Classroom やマチコミメールによる情報提供は充実しており、校内・校外向けにはホームページやInstagramによる情報発信を積極的に行っている。	○ホームページやInstagram、広報紙等それぞれの役割や特徴を活かし、各ステージ、各グループ、各部活動の情報が時機を逃さず積極的に発信されている。	○ホームページやInstagram、広報紙等の役割、特徴を整理する。広く多くの職員から情報が更新されるよう呼び掛けていく。	○各ステージや教科から適宜 Classroom やマチコミメールによる情報提供や課題配信をしている。 ○ホームページやInstagramに対して保護者や外部からの関心は高まっている。 【保護者アンケート】 倉吉西高のホームページやInstagramをよく見ている。 57.0%(前年比+5.6 ポイント) ○PTA広報誌の作成に当たっては、保護者と連携し工夫している。	C	○各グループ、ステージ、部活動などにおいて、魅力的な情報発信に努め、内容の偏りがないよう発信の頻度を上げる。また、情報は行事後すぐに発信するように努める。
働き方改革の推進	○「前例踏襲」を廃止し、「記録」をもとに業務を行い、「よりよいもの」へと更新していく。 ○時間外業務時間を更に削減していく。	○諸活動の見直し・変革期にあたり、前年度の活動をそのまま踏襲すること自体が困難な状況にもある。 ○会議の精選及び実施回数の精選により、時間外業務削減につながっている。	○「記録」をもとに業務内容等の修正が習慣化されており、次年度の改善すべき点が明確になっている。 ○業務の偏りがなく、すべての教職員の時間外業務時間が減少している。	○「記録」をもとに業務の改善点を明確にし、業務内容の改善や時間短縮につなげる。 ○ICTを活用して情報共有や意見交換を行うことで会議等の時間削減を行う。	○各分掌において、業務日誌等への記録、委員会等の会議録の保存など、次年度への引継ぎを意識した業務改善を行った。 ○職員会議等の会議資料を紙からPDFなど Google Classroom の活用により業務改善に取り組んだ。 1 か月 45 時間超累計人数 39 人（前年同月までの比較-5 人） ○生徒の欠席連絡の方法を電話から Google フォームに変更し、業務改善を図った。	C	○記録をもとに業務内容改善の検討を継続する。 ○業務内容を整理し、学校組織を学校目標に合わせて改編検討する。